

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」
交通事業者との連携を強化して軸となる路線の維持・改善を図る

【目標指標】年間輸送人員／実車走行キロ

□市内全路線	当初（平成28年度）	：2.03人/km
	現状値（平成30年度）	：2.45人/km
	目標値（令和4年度）	：現状維持（2.03人/km）
□軸となる区間	当初（平成28年度）	：2.41人/km
	現状値（平成30年度）	：2.57人/km
	目標値（令和4年度）	：増加（2.41人/kmから）

■施策1 バス路線の維持と継続的な見直し

①交通事業者との連携強化

- ・バス事業者との分科会、打ち合わせを開催し、情報共有、協議等を行う。
- ・国際興業(株)と市において「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定」の令和5年度以降の内容について協議する。

②補助金の継続

- ・基幹公共交通となっているバス路線に対して、補助金を継続して交付する。

③利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し

- ・運行改善や利用促進につながるモニタリングを効果的に実施する。

■施策2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

①観光施策と連携した利用促進

- ・「お散歩マーケット」（南高麗地区）、「なぐり見聞食ブラ散歩」（名栗地区）等地域と連携して実施する。

②市内コンテンツを活用した利用促進

- ・令和2年度に開業予定の「OH!!!」（株）ピククルスコポーレーション、「ノーラ名栗」をはじめ、ヤマノススメ、メツツア等を活用した公共交通の利用促進事業を検討する。

③おでかけ促進と連携した利用促進

- ・地域のイベント、商業施設等と連携した路線バス利用促進事業を実施する。

■施策3 バス運行環境の整備

①バス停の待合環境の改善

- ・バス停の状況を調査し、必要に応じて対策等を検討する。

②施設を活用した待合環境の整備

- ・交通結節点の候補場所を検討する。

③飯能駅北口ロータリー周辺の使い方の改善

- ・必要に応じて対策を検討する。

④市内道路網の課題解決に向けた取組の実施

- ・国際興業バス「尾長入口」、「名郷」バス停付近の舗装工事を実施する。

■施策4 需要に応じたバス路線の見直し

①施設立地等に対応したバス路線の見直し

- ・新たな商業施設等のオープンに伴い、路線バス運行環境を整備する。

基本目標2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」
利用しやすい公共交通環境をつくり、おでかけを促進する

【目標指標】路線バスを1年間に1回以上利用した割合

現状値（平成29年度）市民アンケート結果	= 41%
目標値（令和4年度）市民アンケート結果	= 43%
	→（2ポイントの増加）

■施策1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

①わかりやすいバス案内看板の設置

- ・バス案内看板のメンテナンスを実施する。

②バスマップの作成・配布

- ・「飯能市バスルートマップ」（H30改訂）を増刷、配布する。

■施策2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

①まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント

- ・各種割引サービス等の交通事業者による既存の取組を周知する。

②通勤・通学者等に対するモビリティマネジメント

- ・全学的な「ノーマイカーデー」を日高市と連携し、広域的に実施する。
- ・市内高等学校等の生徒向けに市内路線バスの利用促進を実施する。

■施策3 マイバス意識の醸成

①バスを使ってもらう取組

- ・路線バスを使ったツアー、スタンプラリー等の開催について研究、検討をする。

②バスのことを理解してもらう取組

- ・はんのう生活祭において路線バスを使った利用促進事業、市民向けの出前講座等を実施する。

③地域におけるマイバス意識の醸成

- ・路線バスに愛着を持って利用してもらえるよう意識啓発を実施する。

■施策4 公共交通利用のための利便性の向上

①乗継利便性の向上

- ・サイクル・アンド・バスライド等の候補場所を検討する。

②高等学校等バス通学費補助

- ・継続して実施する。アンケート結果をもとに補助の内容等について検討する。

③利便性向上のための設備投資

- ・市内のバスまちスポット、まち愛スポットの見直しを行う。

基本目標3：生活を支える公共交通手段を「つくる」
おでかけを支える公共交通手段を地域が主体となって確保する

【目標指標】将来（10年後）の外出に不安を感じる人の割合

□全年代	
現状値（平成29年度）市民アンケート結果	= 58%
目標値（令和4年度）市民アンケート結果	= 58%未満
□65歳以上	
現状値（平成29年度）市民アンケート結果	= 84%
目標値（令和4年度）市民アンケート結果	= 84%未満

■施策1 「おでかけ」を守るための検討

①飯能市地域公共交通対策協議会の運営

- ・必要に応じて、協議会及びバス事業者による分科会を開催する。
- ・「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」を開催し、市内の公共交通が不十分な地域における移動手段の導入について検討する。

②地域での交通手段を導入するための仕組みづくり

- ・「地域主体による生活交通の導入・確保の手引き」を周知し、配布する。
- ・必要に応じて公共交通空白地有償運送を運行する団体に対して補助金を交付し、支援する。
- ・市内の移動サービス実施団体のドライバーを対象に「運転者講習会」を実施する。
- ・各地域の実状に応じた移動手段の導入及び運行支援を実施する。

③地域による主体的な運営組織づくり

- ・地域の現状・課題を市民アンケート等に基づき整理するとともに課題の解決に向けた取組案を示すことにより、公共交通の運営組織づくりを推進する。

■施策2 社会資源の活用の検討

①スクールバスの混乗

- ・奥武蔵小学校スクールバス一般住民の混乗制度を継続して実施する。

②送迎バスの活用検討

- ・総合福祉センター送迎バスのあり方について見直し、公共交通の空白地、不十分地域を運行する移動手段の導入を検討する。
- ・その他市内福祉関係施設等の送迎車両の活用について検討し、必要に応じて協議を進める。